

診療最前線

ペインクリニック (痛みの治療) 外来

ペインクリニック外来では、痛みに関連する多くの疾患に対して治療を行います。治療目的は、①痛み・しびれ・血行障害などの症状を軽減させる、あるいは完治させる ②原因となる疾患の治りを早くする ③日常生活の質を高める (身の回りの事、家事、仕事や農作業が楽にできる) ④症状の進行・悪化を防ぐ (特に冬季) などが挙げられます。主な治療方法を解説します。

Ⅰ. 神経ブロック治療

最も多く用いられる治療方法で、痛みの原因となっている神経の近くに局所麻酔薬や炎症を抑える薬を注入します。痛みを抑えるだけでなく、局所の血流改善効果があります。通常は週1回の通院で治療を開始して、症状が改善すれば間隔を伸ばしていきます。

●硬膜外ブロック (図1) ●

痛みを感じる神経が脊髄神経から枝分かれする付け根の部分の近くに、直接薬剤を注入しま

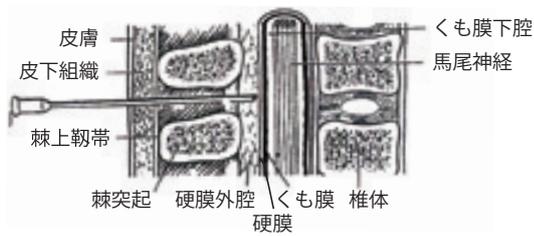


図1 硬膜外ブロック (脊椎部の断面図)

す。くび・胸・腰のどこでも、痛みの場所に応じて治療を行うことができます (背中側からの注射)。

**適応疾患**

- a. 腰・下肢の痛み・しびれや歩行障害 (腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎すべり症・腰椎圧迫骨折・骨粗しょう症など)
- b. 帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛 (くびから下)
- c. 手足の先の血行障害・壊死 (閉塞性動脈硬化症・パージャール病)
- d. 糖尿病性神経障害
- e. くび・肩・上肢の痛み・しびれ (頸椎椎間板ヘルニア・頸髄症・ムチ打ち症) など。

●星状神経節ブロック (図2) ●

頭部・くび・上肢および胸部の血流を改善させる治療で、くびの前からの注射です。痛みの

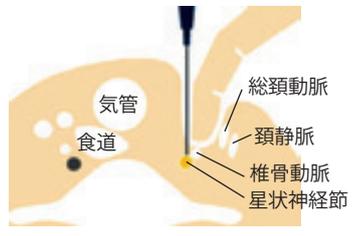


図2 星状神経節ブロック

**適応疾患**

- a. 頭部と顔の神経痛 (三叉神経痛・頭痛・顔面痛)
- b. 帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛 (くびから上)
- c. 頸椎椎間板ヘルニア・頸髄症
- d. ムチ打ち・自律神経失調症
- e. 花粉症 など。

●局所ブロック

痛みを感じる末梢神経の枝や、痛い場所の筋肉・関節の近くに

神経には直接作用しません。が、血流改善によって色々な症状を改善させます。

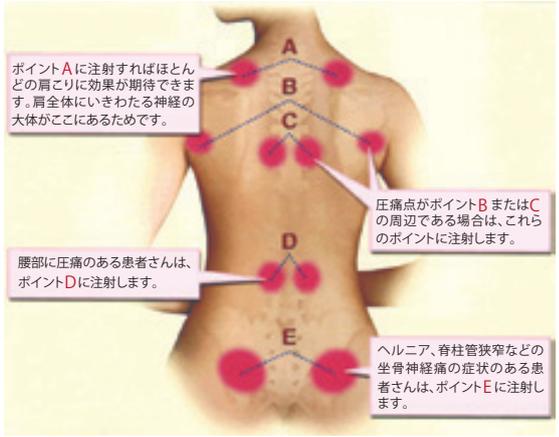


図3 トリガーポイント注射

Ⅲ. 薬物療法

ブロック・点滴治療と併用して、消炎鎮痛薬・血流改善薬・末梢神経障害治療薬・抗てんかん薬、抗うつ薬、精神安定薬などを使用します。内服だけでなく、座薬・湿布薬・外用薬も併用します。

Ⅱ. 点滴療法

薬の内服や他の持病によりブロック治療を行うことが難しい患者さんに対して、次の手段として行われます。鎮痛薬、血管拡張薬、ビタミン薬、抗炎症薬などを組み合わせ、約1時間の点滴を行います。他に持病があっても、安全に継続して治療することができます。

当科はペインクリニック学会認定施設として、患者さんに十分説明を行った上でガイドラインに沿った安全・確実な治療を行います。

診療部長兼麻酔科統括部長 鬼頭 剛